

《 会 議 録 》	
会議名	令和7年度 第2回箕面市介護サービス評価専門員会議
日時	令和7年12月5日（金）午後2時から午後3時20分
場所	豊能広域こども急病センター3階大会議室
出席者	〔専門員〕明石専門員、氏江専門員、西川専門員、飯塚専門員、村上専門員、山岡専門員、岸田専門員、土井専門員、阪本専門員 〔事務局〕岡本部長、水谷副部長、長谷川担当副部長、村尾室長、中村室長、三浦担当室長、坪田室長、七樂室長補佐、谷川グループ長、竹内グループ長、北野グループ長、川上グループ長、奥本参事、池永参事、兒玉
傍聴者	2名
〔会議内容〕	
1. 議題と配付資料の確認、専門員の紹介等について	
<ul style="list-style-type: none"> ●議題と配付資料の確認を行った。 ●出席専門員の人数と欠席専門員の報告を行った。 ●令和7年度第2回会議から交代となる専門員（箕面市自立支援協議会 阪本専門員）の紹介を行った。 	
2. 案件1. 市内指定地域密着型（介護予防）サービス事業所の新規指定について（広域福祉課）	
<ul style="list-style-type: none"> ●事務局から「資料1」に基づき説明 ○事務局から市内指定地域密着型（介護予防）サービス事業所の新規指定の状況や、指定基準（人員基準や設備基準等）の確認結果について口頭で説明を行った。 ●質疑等（骨子。以下同） 特になし 	
3. 案件2. 第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のためのアンケート調査について（高齢福祉室）	
<ul style="list-style-type: none"> ●事務局から「資料2-1」及び「資料2-2」に基づき説明 ○第10期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のためのアンケート調査について説明を行った。 ●質疑等 専門員：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査のアンケート項目のうち、市独自項目に将来希望する生活（項番15）、施設に入所したい理由（項番16）というのがあり、これらはおそらく対象者本人に対する聞き取り項目になると思われる。今般、国や府が掲げている「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」では、家族で話し合うことの重要性について触れており、今回のアンケート調査でも対象者本人に聞き取ることも含めて、家族で話し合いをされているか、というような項目があれば、アンケートを通じて、 	

取組の啓発につながることを期待されるのではないかと考える。

事務局：今後、検討させていただく。

専門員：社会福祉協議会ささえあいステーションは、小学校区毎の地域づくりを進めているため、項目に居住地域の小学校区を入れることを提案したい。また、小学校区毎のアンケート結果や分析結果については、地域住民と共有し地域活動について考える材料になるため、是非フィードバックをお願いしたい。

それから、市で開催しているアンチエイジングセミナーや健康教室等において参加者が集まりにくいという課題について、我々としては地域の会合でチラシを配付したり、マンションの掲示板に貼付するよう依頼したりしているが、高齢者自身がそのような情報をどのように得ているのかをアンケート項目に追加してもらえたらと考える。

また、幸福感について（国必須項目項番29）アンケートで触れているが、反対に高齢者の孤独感や孤立感についての項目も追加を検討して欲しい。

最後に、市独自項目に地域活動に参加しない理由（項番13）について触れているが、何があれば参加につながるのか、ボランティアポイント等の具体的な例を提示しながら、参加へのハードルが下がる要因についても追加で触れてもらえたらと考える。

事務局：小学校区毎の圏域でのデータ分析とそのフィードバックについては、対応可能であるため、その方向で進めたい。また、高齢者自身がセミナーや教室等の情報をどのように入手しているかについては項目の追加に向けて検討し、孤独感や孤立感についての項目は、幸福感を問う設問の中で追加できるかを検討する。最後に、地域活動への参加に向けた内容については、設問の内容を工夫し反映できればと考える。

専門員：アンケート項目は多くなれば多くなるほど答えにくくなることがあるが、今回は削除した項目もあるので、項目の量としては問題ないと思われる。

それから、孤立・孤独についてだが、孤独は自分一人であることを楽しむこともできるため、それは別にネガティブなことではない。しかし孤立は社会から切り離されることとなり、こちらの方が問題であると考えられるので、孤立と孤独については峻別して考えてもらいたいと思う。

専門員：市独自項目（項番8）の運転免許を返納する意向については、直接聞かれることに抵抗がある高齢者もいる中で、アンケートの文言が直接的過ぎるのではないかと感じる一方、当然聞いてみたいと感じるところでもある。

事務局：センシティブな項目であるため、配慮できることがないか事務局内で検討する。

専門員：高齢者の立場として答えると、情報収集の方法としては、シニア塾等に実際に参加した時やライフプラザへ行った時、または広報紙から情報を得ている。

専門員：色々な媒体がある中で、身近なことというやはり近所の口コミが媒体になっていると感じる。

4. 案件3. 令和7年度保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金の結果報告につ

いて（高齢福祉室）

●事務局から「資料3-1」に基づき説明

○令和7年度保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金について結果の報告を行った。

●質疑等

専門員：人材確保について、令和6年度から令和7年度に掛けて色々取り組まれていることを伺った。改めて切実に人材確保についてお願いしたいところであり、社会福祉法人として最も力を入れたいところである。

外国人の介護人材も増える中で、どのように人材確保を進めていくのかについて、行政とサービス事業者と一緒に取り組み、結果として交付金の評価や得点につながっていくことが望ましいと考える。

事務局：本市としても介護人材の確保は、喫緊の課題と認識している。交付金との関係については、資料3-2の4ページ目項番6では、介護の仕事の魅力を伝達するための研修の修了者数が評価指標に挙がっているが、本市では国指標に示されているようなことは現状は行っていないものの、介護人材の裾野を広げるということで、広報紙で福祉の仕事に従事されているかたの特集記事を掲載したり、福祉就職イベントの後援やハローワーク池田と近隣市と共催で介護就職イベント等に取り組んでいる。ただ、これらの取組については、他市の状況を踏まえ、まだまだ検討をすすめていく必要があると認識しており、関係事業者の皆様からも意見をいただきたいと考えている。

専門員：資料3-2の8ページ項番15の高齢者人口当たりの生活支援コーディネーター数について、第2層生活支援コーディネーターの全小学校区に専従職員7人の配置は、他市と比べて手厚いという印象が社会福祉協議会としてあったのだが、本市結果の欄に、「上位7割」には該当、「上位5割」に入らずという結果が意外であった。全国と比較した際の本市の評価の内容等について教えて欲しい。

事務局：各市町村に関する具体的な数字については持ち合わせていない状況である。

専門員：8ページ目項番16の認知症サポーター等を活用した地域支援体制の構築及び社会参加支援について、令和5年度から認知症サポーターフォローアップ研修を開催し、チームオレンジメンバーの育成を行っているとする。認知症サポーターフォローアップ研修が始まってから2年経過し、箕面市のチームオレンジメンバーの活動、例えば認知症カフェの開催状況や参加人数の動向等について機会があれば、教えてもらう機会を設けて欲しい。

事務局：認知症カフェの開催は最近増えてきている。開催状況については、毎月広報紙に掲載しており、市内に10か所、全包括圏域で開催している。

10か所の認知症カフェについては、毎月市のホームページで参加者数等の報告を行っている。今後機会があれば、認知症カフェの現状等についてまとめて報告ができたらと思う。

6. その他

- 事務局から令和7年度第3回箕面市介護サービス評価専門員会議の開催日程について、令和8年2月頃を予定、後日通知する旨を連絡した。

以上